

信濃俣河内

2013年10月12日(土)～13日(日)

メンバー：池田T(記)、坂野、大竹

北アルプスや上越によくある花崗岩主体で明るく開けた沢とは対照的な、黒い岩主体の落ち着いた雰囲気沢。下山路も含めて南アルプスらしさを感じることが出来た。

今回は水量が少なめで水に浸かったのは腰程度。大きな高巻きもせず、足が揃ったメンバーだったこともあって 1泊2日で遡行できた。岩魚が多いのでゆったり2泊して釣りを楽しむのも良いと思う。

10/12(土) 快晴

畑籾第一ダムに車を停めて堰堤を渡り、信濃俣の右岸林道に入る。歩き始めて30分ちよつとで林道を外れ、吊橋に向かって降りていく。林道をそのまま進んで崩壊箇所をトラバースするよりも速くて安全である。

橋に近づくと、何と湖面に水が無い。(川の水流はある)

橋を渡って左岸の径をしばらく歩くとつりだつたが、渡らずにそのまま湖面に降り立った。最後の急な箇所はトラロープがぶら下がっていたので水が干上がる時期は毎年あるのだろう。

干上がったダム湖歩きでスタートし、やがて河原歩きになる。西河内出合あたりでやっと沢らしくなるが、そこを過ぎてから第一ゴルジュまでは再び河原歩きのような状態が続く。



背後に見えるのが信濃俣大吊橋。



第一ゴルジュの入り口あたり。

第一ゴルジュで一回だけロープを出す。そこを過ぎるとしばらくは沢歩きとなる。

第二ゴルジュは黒い岩壁が囲まれているので結構圧迫感がある。ただ、水流は激しくなかったため 予想した泳ぎやシャワークライミングは無かった。



第二ゴルジュ。出口は近い。



第三ゴルジュエリアの5m滝。

第三ゴルジュはあまりゴルジュらしくない。小滝をいくつも越えていく。



5m滝の右岸を巻くために枝沢を登る



この小滝も第三ゴルジュエリア内

初日は西沢出合から500mぐらい進んだ所、標高1750mあたりで行動を打ち切ってタープを張った。その先しばらく小滝が続いて幕営適地が無いと思ったのだが、もう20分程進めばもっと広くて安全な台地があることが翌日分かった。

タープの良いところは寝ながら星が見えること。夜中に目が開いた時、無数の星々が煌いているのに気がついた。自分の視線の先にはオリオン座があったのだが、下界では見えない星が輝いて見えるので、それがオリオンだと認識するのに少し時間を要した。

<タイム>

畑籾第一ダム7:40 – 信濃俣大吊橋8:20 – 西河内出合10:00 – 中俣沢出合10:45~10:55 – 第一ゴルジュ(入)11:10 – 第二ゴルジュ(入)12:45 – 第三ゴルジュ(入)13:40 – 西沢出合15:15 – 標高1750m付近15:50

10/13(日) 快晴

高度を上げるにつれて紅葉がチラホラ見られるようになってきた。最低気温は5℃ほど。やはり秋である。小滝と大岩がゴロゴロしている所が交互に出てくる。また、沢の左右に土砂崩れが目立つ。特に右岸が著しい。

標高2000mの二俣で判断ミス。希望峰に真っ直ぐ向かう予定であったが、右と左の水量がほぼ同じに見えたのと左俣が西に向かうように見えたので（実際にはすぐに東に向きを変えている）、右俣に入ってしまった。

水流はじきに無くなり、樹林帯の登りになった。



前方に見える滝は水流脇を直登した。



樹林帯の登り。標高2400m付近。

樹林帯が終ると手強いハイマツ帯が待っていた。背丈ほどあって密なので上に乗っかって進むしかない。距離はおそらく100m程度だったと思うが、手と足でハイマツを押さえつけながら登る全身運動なので非常に疲れた。希望峰と仁田岳のコルから南に100mの地点で登山道に出た。



登山道に出てホツとしたところ。



茶臼岳の山頂にて。

茶臼岳の山頂からは360度の展望を堪能できた。南アルプスや深南部の山々はもちろん中央アルプス、さらに槍・穂高らしい峰も望むことが出来た。

メンバー、少なめの水量、天候とあらゆる条件に恵まれた山行であった。

<タイム>

出発6:05 – 希望峰と仁田岳の間9:20 – 茶臼岳10:20～10:40 – 横窪沢小屋12:05 – ウソツ沢小屋13:10 – 畑薙大吊橋14:10 – 畑薙第1ダム15:20

LatLongLab

信濃俣河内

【重要】ルートラボは2020年3月末にサービスを終了します。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

ルートラボ
more effective route

> >>>

▶